## 1 cm В 30 µm В 30 µm С

**写真1** A-C: ホンセイヨウショウロ(A: キノコ, B: 胞子, C: 胞子の拡大写真) D-F: ウスキセイヨウショウロ(D: キノコ, E: 胞子, F: 胞子の拡大写真)





**写真2** A: イボセイヨウショウロ(現在、分類学的な位置づけの解析を進めており、その結果によっては名前が変わるかもしれません。) B: 野外での発生の様子

はじめに

トリュフを遺伝的に解析すると、20種類に分けられら2008年までの間に日本各地から採取されたす。ヨーロッパが有名な産地ですが、日本でもトリュす。ヨーロッパが有名な産地ですが、日本でもトリュトリュフは世界三大珍味の一つとされるキノコで



森林研究部門 きのこ・森林微生物研究領域長 山中 高史



九州支所 主任研究員 木下 晃彦

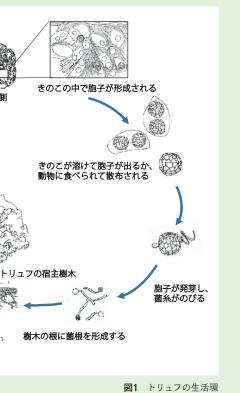
## たな森林資源の利田の人工栽培を目指す

た。 ることがわかりました。これらの中には、 指したプロジェクトが平成27年度から始まりまし を受けた国産トリュフの人工栽培技術の開 て有望な種もあります。そこで、 農林水産省の委託 食用とし 発を目

## 食用有望トリュフの分類学的な位置づけ

まず、人工栽培の対象とする国産トリュフの 分

類学的 ずれ ウショウロ (T.flavidosporum) としました (写真 1 て 色 存 Tuber D の 在することが示された2種のうち、 )。ウスキセイヨウショウロは発生例が限られま ŧ 1 Ν 新種と確認し、 リュフについて、 Α な位置づけを明らかにしました。 japonicum) ' 情報に基づく 1 形 もう1種をウスキセイヨ 種をホンセイヨウショウロ 分子系統解析を行い、 態 や 生態的特性、 2 種 国 そ 内に の 淡





内側

外側

クヌギの根にしがみつくように発生したホンセイヨウショウロのキノコ

すが、 クやチーズのような香りを放つため、私たちはこの コの大きさが4m以上になり、 種との分類学的な位置づけの解析を進めています。 れていましたが、アジアにて報告されてきた近縁 (写真2)は、これまでイボセイヨウショウロとさ を栽 ホンセイヨウショウロは6府県で発生し、 培の対象としました。 成熟するとガーリッ 方、 黒色のトリュ キノ の

種

## 人工栽培をめざす トリュフの発生に適した条件を明らかにし、

めています。 複数の菌糸が必要ということもわかってきました。 を作るためには、 ことが必要です。 工的にトリュフを発生させるためには、 たトリュフの栽培技術の開発を目指して研究を進 また最近、 とにトリュフ菌を接種した実生苗を育てていま 分を得て成長する菌根菌です(図1、写真3)。 生環境の調査を行い、 外の発生地の土壌環境を再現した条件で育てる 木の苗にトリュフ菌を感染させて、その苗木を、 トリュフは、樹木が光合成によって作り出した養 した情報も参考にしながら、 海外の研究報告からトリュフ菌がキノコ 昨年までにホンセイヨウショウロの 性遺伝子 現在は得られた情報をも (オスとメス)が異なる 日本の風土にあっ 宿主とな

発

野 樹

きのこが形成される

きのこのもと が形成される

菌根から菌糸がのびる